

Ⅲ. 調査結果の要約

1 区の施策および評価について

(1) 居住年数 (本文55ページ)

練馬区に住んで何年になるか聞いたところ、「31年以上」(37.1%)と「21年～30年」(16.6%)を合わせた『長期居住者』(53.7%)が5割を超えている。また、「11年～20年」の『中長期居住者』(19.6%)が約2割、「6年～10年」の『中期居住者』(10.1%)が約1割、「1年～5年」(12.5%)と「1年未満」(3.9%)を合わせた『短期居住者』(16.4%)が1割台半ばとなっている。

(2) 住みごち (本文57ページ)

練馬区の住みごちを聞いたところ、「住みよい」(35.8%)が3割台半ば、「まあ住みよい」(58.1%)が6割近くで、この2つを合わせた『肯定的評価』(93.9%)が9割を超えている。一方、「あまり住みよくない」(4.1%)と「住みにくい」(0.7%)を合わせた『否定的評価』(4.8%)は1割を下回っている。

(3) 練馬区が住みよいと感じるところ (本文62ページ)

練馬区が住みよいと感じるところを聞いたところ、「みどりが豊かで環境がよい」(52.3%)が5割を超えて最も多く、次いで「交通の便がよい」(45.9%)、「治安が比較的よい」(42.8%)、「買い物がしやすい」(42.1%)、「防災の面で比較的安心である」(15.0%)などの順となっている。

(4) 練馬区が住みにくいと感じるところ (本文66ページ)

練馬区が住みにくいと感じるところを聞いたところ、「健康や医療に関する施設やサービスが不足している」(19.9%)が約2割で最も多く、次いで「交通の便が悪い」(19.1%)、「近隣と疎遠で地域住民の関係が希薄である」(14.5%)、「働く場所があまりない」(13.8%)、「買い物が不便である」(13.3%)、「防災の面で不安がある」(12.4%)などの順になっている。一方、「特にない」(26.6%)は2割台半ばで昨年度から6.2ポイント増加している。

(5) 定住意向 (本文70ページ)

これからも引き続き練馬区に住みたいと思うか聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(32.8%)と「当分は住み続けたい」(44.0%)を合わせた『定住意向』(76.8%)が7割台半ばとなっている。一方、「できれば区外へ移りたい」(3.8%)と「区外へ移りたい」(1.9%)を合わせた『転出意向』(5.7%)は1割を下回っている。

(6) 練馬区への愛着 (本文74ページ)

練馬区に愛着を感じるか聞いたところ、「愛着を感じる」(33.3%)と「どちらかというとな愛着を感じる」(42.8%)を合わせた、愛着を『感じる』(76.1%)が7割台半ばとなっている。一方、「どちらかというとな愛着を感じない」(3.6%)と「愛着を感じない」(3.3%)を合わせた、愛着を『感じない』(6.9%)は1割を下回っている。

(7) 練馬区に対する誇り

(本文78ページ)

練馬区に誇りを感じるか聞いたところ、「誇りを感じる」(13.2%)と「どちらかというと誇りを感じる」(31.0%)を合わせた、誇りを『感じる』(44.2%)が4割台半ばとなっている。一方、「どちらかというと誇りを感じない」(7.9%)と「誇りを感じない」(7.1%)を合わせた、誇りを『感じない』(15.0%)は1割台半ばにとどまっている。

(8) 施策の満足度と必要性

(本文83・85ページ)

満足度について『満足評価』と『不満評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようになっている。

『満足評価』上位5項目		『不満評価』上位5項目	
①みどりの保全と創出	(76.0%)	①交通安全対策	(58.8%)
②健康づくりの推進	(72.5%)	②駅周辺のまちづくり	(46.1%)
③循環型社会づくり	(69.6%)	③区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり	
④都市農業の振興と都市農地の保全	(66.1%)		(45.7%)
⑤開かれた区政	(65.3%)	④観光の推進	(42.1%)
		⑤エネルギー政策の展開	(41.5%)

必要性について『必要性が高い評価』と『必要性が低い評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようになっている。

『必要性が高い評価』上位5項目		『必要性が低い評価』上位5項目	
①医療環境の充実	(87.2%)	①観光の推進	(42.9%)
①災害に強い安全なまちづくり	(87.2%)	②地域活動の活性化と多文化共生社会の実現	
③交通安全対策	(86.1%)		(39.6%)
④高齢者福祉	(85.2%)	③平和と人権の尊重、男女共同参画の推進	
⑤地域防災力の向上、安全・安心な地域づくり			(34.8%)
	(83.4%)	④文化・生涯学習・スポーツの振興	(31.5%)
		⑤都市農業の振興と都市農地の保全	(31.2%)

(9) 施策への要望

(本文94ページ)

特に力を入れてほしい施策を第1位から第3位まで挙げてもらった。その3つの累計をみると、「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」(21.6%)が2割を超えて最も多く、次いで「交通安全対策」(20.9%)、「医療環境の充実」(18.9%)、「高齢者福祉」(18.3%)、「子育て支援」(17.3%)などの順になっている。

(10) 区政情報の入手先

(本文104ページ)

区政の情報を主に何から入手しているか聞いたところ、「ねりま区報」(64.2%)が6割台半ばで最も多く、次いで「区ホームページ(携帯サイト、スマートフォンサイトを含む)」(37.7%)、「わたしの便利帳」(20.4%)、「区の施設・窓口にあるポスターやパンフレット」(11.4%)などの順になっている。

過去の調査と比較すると、「わたしの便利帳」は前回調査(平成29年度)より5.4ポイント減少している。また、「ねりま区報」「わたしの便利帳」「区の施設・窓口にあるポスターやパンフレット」「区役所に直接問合せ(電話を含む)」「ねりまほっとライン」はいずれも前回調査(平成29年度)より減少している。

(11) 「わたしの便利帳」の利用の有無

(本文106ページ)

「わたしの便利帳」を利用しているか聞いたところ、「利用したことがない」(51.2%)が5割を超えている。

(11-1) 「わたしの便利帳」の満足度

(本文109ページ)

「わたしの便利帳」を「利用したことがある」と答えた方(530人)に、どの程度満足しているか聞いたところ、「とても満足している」(11.5%)と「満足している」(74.2%)を合わせた『満足評価』(85.7%)が8割台半ばとなっている。一方、「あまり満足していない」(12.3%)と「満足していない」(0.9%)を合わせた『不満評価』(13.2%)は1割を超えている。

(11-2) 「わたしの便利帳」の利用頻度

(本文112ページ)

「わたしの便利帳」を「利用したことがある」と答えた方(530人)に、どの程度利用しているか聞いたところ、「年に数回程度」(75.8%)が7割台半ばで最も多く、次いで「2～3か月に1回程度」(15.5%)となっている。一方、「月に1～3回程度」(7.0%)、「週に1回以上」(0.8%)は1割未満となっている。

(11-3) 「わたしの便利帳」の閲覧手段

(本文114ページ)

「わたしの便利帳」を「利用したことがある」と答えた方(530人)に、閲覧手段を聞いたところ、「便利帳の現物(冊子)」(87.4%)が9割近くで最も多い。一方、「パソコンを使って、電子ブックで見ている」(6.8%)、「パソコンを使って、PDFファイルを見ている」(5.7%)、「スマートフォンやタブレットを使って、電子ブックで見ている」(5.7%)、「スマートフォンやタブレットを使って、PDFファイルを見ている」(4.9%)は1割未満となっている。

(11-4) 「わたしの便利帳」でよく利用する情報

(本文116ページ)

「わたしの便利帳」を「利用したことがある」と答えた方(530人)に、よく利用する情報を聞いたところ、「リサイクル、ごみ、環境」(72.5%)が7割を超えて最も多く、次いで「各種届出(戸籍、国民健康保険、年金、税金など)」(49.2%)、「窓口案内」(47.7%)などの順となっている。

(11-5) 「わたしの便利帳」を利用しない理由 (本文119ページ)

「わたしの便利帳」を「利用したことがない」と答えた方(619人)に、利用しない理由を聞いたところ、「存在を知らなかった」(51.2%)が5割を超えて最も多く、次いで「インターネットで調べることができるから」(32.1%)、「必要な情報がないから」(5.0%)の順となっている。

(12) 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の認知度 (本文121ページ)

練馬区情報番組『ねりまほっとライン』を知っているか聞いたところ、「知っている」(26.2%)が2割台半ばとなっている。

(12-1) 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の視聴度 (本文123ページ)

練馬区情報番組『ねりまほっとライン』を知っていると答えた方(316人)に、番組の視聴度を聞いたところ、「いつも(ほぼ毎回)見ている」(1.6%)は1割未満で、これに「興味がある内容のときだけ見ている」(40.5%)を合わせた『見ている』(42.1%)が4割を超えている。一方、「見ていない」(57.9%)は6割近くとなっている。

2 都市農業・農地について

(1) 都市農業・農地に対する考え (本文125ページ)

都市農業・農地に対する考えについて聞いたところ、「都市生活を豊かにするものである」(79.0%)が約8割となっている。

(2) 農地の保全 (本文127ページ)

農地の保全について聞いたところ、「積極的に保全すべきである」(38.9%)が4割近くで、これに「できる限り残した方がよい」(40.3%)を合わせた『残した方がよい』(79.2%)が約8割となっている。一方、「減少することはやむを得ない」(10.7%)は約1割となっている。

(3) 重要だと思う農業振興策 (本文129ページ)

重要だと思う農業振興策について聞いたところ、「意欲ある農業者の取組に対する支援」(56.3%)が5割台半ばで最も多く、次いで「農業者の支え手となる人材の育成」(46.8%)、「区民農園・市民農園(自ら野菜づくりを楽しめる農園)等の貸し農園の充実」(41.7%)などの順になっている。

(4) 「農」とのふれあい (本文131ページ)

「農」とのふれあいについて聞いたところ、「ブルーベリー等観光農園で果物の摘み取りをしてみたい」(24.1%)が2割台半ばで最も多く、これに「区民農園・市民農園等で農作業を体験してみたい」(14.1%)、「農家の畑で野菜の収穫を体験してみたい」(9.6%)、「農業体験農園(農業者の指導に基づき農作業を体験する農園)等で農作業を体験してみたい」(8.9%)、「農家の農作業を手伝ってみたい」(4.9%)、「農業を本格的に学び、将来は農業に従事してみたい」(0.7%)を合わせた、『ふれあってみよう』(62.3%)は6割を超える。一方、「ふれあってみようとは思わない」(22.3%)は2割を超える。

(5) 区内での農業体験

(本文133ページ)

区内での農業体験について聞いたところ、「観光農園で摘み取り等の体験をしたことがある」(11.5%)が1割を超えている。一方、「体験したことはない」(70.1%)が約7割となっている。

(6) 練馬産の農産物の購入

(本文135ページ)

練馬産の農産物の購入について聞いたところ、「農家の庭先直売所で買ったことがある」(55.6%)が5割台半ばで最も多く、次いで「JA(農協)の共同直売所で買ったことがある」(38.0%)、「スーパー等で買ったことがある」(36.5%)などの順となっている。

(7) 自宅の近くにあったら良いと思う農地・農園

(本文137ページ)

自宅の近くにあったら良いと思う農地・農園について聞いたところ、「新鮮な旬の農産物を供給してくれる」(67.7%)が7割近くで最も多く、次いで「採れたての農作物が食べられるレストランが隣接されている農園」(32.5%)、「ブルーベリーやいちごなどの摘み取りができる観光農園」(24.6%)などの順となっている。

3 地域福祉について

(1) 地域福祉活動への興味・関心

(本文139ページ)

地域福祉活動への興味・関心について聞いたところ、「興味・関心がない」(37.0%)が4割近くで最も多く、次いで「興味・関心があり、いずれ活動したいと思っている」(36.1%)が3割台半ばとなっている。また、「興味・関心があり、活動している(していた)」(12.7%)は1割を超えている。

(1-1) 興味・関心がある地域福祉活動

(本文141ページ)

地域福祉活動に「興味・関心がある」と答えた方(590人)に、興味・関心がある地域福祉活動について聞いたところ、「子育て支援」(45.1%)が4割台半ばで最も多く、次いで「高齢者福祉」(42.9%)、「防災、防犯、防火、交通安全」(35.4%)、「環境美化、リサイクル、みどりの保全」(35.3%)などの順となっている。

(1-2) 地域福祉活動に興味・関心を持ったきっかけ

(本文143ページ)

地域福祉活動に「興味・関心がある」と答えた方(590人)に、興味・関心を持ったきっかけについて聞いたところ、「家族や友人等、身近に活動している人がいた」(38.0%)が4割近くで最も多く、次いで「区のイベントや情報で活動を知った」(27.8%)、「自分が所属している団体が活動していた」(14.4%)の順となっている。

(1-3) 地域福祉活動をしていない理由

(本文145ページ)

地域福祉活動に「興味・関心があり、いずれ活動したいと思っている」と答えた方(436人)に、活動をしていない理由について聞いたところ、「活動するための時間がない」(59.2%)が約6割で最も多く、次いで「きっかけがない(誘われない、団体と出会う機会がない)」(37.2%)、「情報がない(どんな団体があるかわからない、相談できる場を知らない)」(30.7%)などの順となっている。

(2) 区民参加事業の認知状況

(本文147ページ)

区民参加事業の認知状況について聞いたところ、「子育てのひろば(びよびよ、にこにこ、民設)」(32.9%)が3割を超えて最も多く、次いで「ファミリーサポート事業」(19.2%)、「街かどケアカフェ」(12.1%)の順となっている。一方、「知っているものはない」(41.2%)は4割を超えている。

(3) 区内の中規模・小規模の建物のバリアフリー整備状況

(本文149ページ)

区内の中規模・小規模の建物のバリアフリー整備状況について聞いたところ、「進んだ」と「どちらかというに進んだ」を合わせた『進んだ』は、「医院やクリニックなどの医療施設」(59.0%)で約6割、「コンビニやスーパーマーケットなどの商業施設」(58.8%)で6割近くとなっている。一方、「どちらかというに進んでいない」と「進んでいない」を合わせた『進んでいない』は、「理髪店や旅行代理店などのサービス業を営む店舗」(46.8%)、「レストランなどの飲食店」(45.3%)で4割台半ばとなっている。

(3-1) 重点的にバリアフリー化に取り組むべき建物

(本文158ページ)

重点的にバリアフリー化に取り組むべき建物について聞いたところ、「医院やクリニックなどの医療施設」(61.7%)が6割を超えて最も多く、次いで「コンビニやスーパーマーケットなどの商業施設」(52.7%)、「レストランなどの飲食店」(35.0%)の順となっている。

(4) 安心して外出するために必要な設備や案内

(本文160ページ)

安心して外出するために必要な設備や案内について聞いたところ、「エレベーターやスロープが目立つ場所にあり見つけやすい」(28.8%)が3割近くで最も多く、次いで「施設に、だれでもトイレや授乳室などがある」(28.1%)、「施設に行くまでの歩道等の幅が広い」(25.1%)の順となっている。

(5) 金銭の管理や契約手続きなどで支援を必要としたことの有無

(本文162ページ)

金銭の管理や契約手続きなどで支援を必要としたことの有無について聞いたところ、「ない」(86.8%)が8割台半ばを占めている。

(6) 成年後見制度の認知度

(本文164ページ)

成年後見制度の認知度について聞いたところ、「言葉も内容も知っていた」(53.9%)が5割を超えて最も多く、次いで「言葉は聞いたことがあったが、内容は知らなかった」(25.7%)となっている。一方、「言葉も内容も知らなかった」(17.9%)は2割近くとなっている。

(7) 成年後見制度の利用意向

(本文166ページ)

成年後見制度の利用意向について聞いたところ、「利用してみたい」(38.8%)が4割近くで最も多く、次いで「わからない」(36.9%)となっている。一方、「利用したくない」(19.5%)は約2割となっている。

(7-1) 成年後見制度を利用したくない理由 (本文168ページ)

成年後見制度を「利用したくない」と答えた方(236人)に、その理由について聞いたところ、「家族などが支援してくれるから」(55.1%)が5割台半ばで最も多く、次いで「後見人に財産管理や契約手続きを任せるのは不安だから」(43.2%)、「申立てにかかる費用や後見人へ支払う報酬が負担だから」(14.8%)の順となっている。

(8) 成年後見制度が必要になったときに相談できる機関の認知度 (本文170ページ)

成年後見制度が必要になったときに相談できる機関で知っているものを聞いたところ、「弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門家」(42.5%)が4割を超えて最も多く、次いで「地域包括支援センター」(20.0%)となっている。一方、「知っているものはない」(32.4%)は3割を超えている。

4 区民のみどりを守り育てる活動について

(1) みどりを守り育てる取組の認知度 (本文172ページ)

みどりを守り育てる取組の認知度について聞いたところ、「みどりのカーテンコンテスト」(13.2%)が1割を超えて最も多く、次いで「保護樹林・保護樹木制度」(11.8%)、「緑化協力員」(10.4%)などの順となっている。

(2) 練馬みどりの葉っぱい基金への寄付の有無 (本文174ページ)

練馬みどりの葉っぱい基金への寄付の有無について聞いたところ、「ない」(93.1%)が9割を超える。

(3) 自宅へ入る落ち葉の清掃 (本文176ページ)

自宅へ入る落ち葉の清掃について聞いたところ、「自宅の落ち葉清掃は、どこからの落ち葉であっても自分で行う」(42.4%)が4割を超えて最も多く、次いで「樹木の所有者が、落ち葉清掃や対策に責任をもって取り組むべきだ」(23.3%)、「自分で行ってもいいが、区がゴミ袋や費用を助成してくれるとよい」(16.6%)などの順となっている。

(4) 落ち葉清掃のボランティアを行うために必要だと思う仕組み (本文178ページ)

落ち葉清掃のボランティアを行うために必要だと思う仕組みについて聞いたところ、「落ち葉清掃イベント等のような気軽に参加できる仕組み」(40.1%)が約4割で最も多く、次いで「ボランティア活動に対して、区が資金や道具などを支援する仕組み」(36.0%)、「落ち葉清掃してほしい場所や人と協力したい人をマッチングする仕組み」(30.2%)などの順となっている。

(5) 落ち葉清掃のボランティアを行ってみたい場所 (本文180ページ)

落ち葉清掃のボランティアを行ってみたい場所について聞いたところ、「公園や憩いの森などの公共の場所」(67.5%)が7割近くで最も多く、次いで「道路や河川沿いの歩道」(38.2%)、「神社やお寺」(31.5%)などの順となっている。

(6) 自主管理公園制度への参加意向

(本文182ページ)

自主管理公園制度への参加意向について聞いたところ、「不定期で良ければ参加したい」(19.9%)が約2割となっており、これに「団体に入らず、活動の手伝いとして参加したい」(13.3%)、「近くの公園で取組を始めたい」(2.9%)、「既存団体があれば定期的に参加したい」(0.7%)を合わせた『参加してみたい』(36.8%)は3割台半ばとなっている。一方、「参加できない・したいと思わない」(56.0%)は5割台半ばとなっている。

(6-1) 自主管理公園制度で行ってみたい取組

(本文184ページ)

自主管理公園制度へ『参加してみたい』と答えた方(445人)に、自主管理公園制度で行ってみたい取組について聞いたところ、「花壇づくり」(51.5%)が5割を超えて最も多く、次いで「樹木の手入れ」(35.3%)、「芝生や草地の手入れ」(32.8%)などの順となっている。

(6-2) 自主管理公園などの活動に関する情報の希望する入手方法

(本文186ページ)

自主管理公園制度へ『参加してみたい』と答えた方(445人)に、自主管理公園などの活動に関する情報の希望する入手方法について聞いたところ、「区ホームページや区報など」(72.4%)が7割を超えて最も多く、次いで「気軽にお試し参加ができる機会」(58.4%)、「団体の掲示板やSNSによる情報発信」(26.7%)などの順となっている。